

わかやま母親通信

第106号 2023年7月2日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は
生命を育て
生命を守ることをのぞみます

HP 和歌山県母親大会

第67回和歌山県母親大会 in 田辺市(於:Big・U)を開催 大会テーマ；平和・自由・多様性が尊重される世界・日本を願って

今年の母親大会の準備は、コロナ第8波の最中に始まりました。西牟婁の人たちも、「開催できるか」の不安の中、学校を借りることができず、会場探しに奔走しやっと借りられたのが、Big・Uでした。限られた会議室数でそれも大小あり、借りる上での様々な規制もある中で、できる限り多くの分科会を設定したいと実行委員会で話し合いました。障がい者団体の方が、「私らはいいいよ」と譲ってくれた中でできた10分科会であったことをお伝えしておきます。

ただ、参加予想人数の多少、機器使用等を考慮しながら会場配置を考えた結果、小会場となった第2、第3分科会に最初の予想以上の参加者があり（大変うれしいことです）、他分科会に移らざるを得なかった方もいたことは、申し訳ないことでした。

分科会の申し合わせ事項をもとに、要求運動を広げよう

第1分科会 子どもたちがすこやかに育つ環境を—それぞれの立場で

- 一 学校は地域のものだから、家庭・学校・学童・ボランティア等が互いに連携し、支え合い、子どもの育ちを見守っていきましょう。
- 一 各自治体に、「先生増やして」「補助金増やして」など、子育てや子どもの育ちを保障する要望を上げましょう。



(感想) 教師、元教師、親、祖母、SC, SSW, 子育て支援員、学童指導者等、それぞれの立場からテーマに沿って意見を出し合いました。

子どもたちが一番の犠牲者だから、子どもたちを幸せにしていけるためには、連携することが大切だということが確認できました。そのためには、教師のゆとりが大切です。子どもが楽しく学校で学べる環境づくりをするために、先生を増やす運動を、学校、親、地域で取り組む必要性を再確認できて良かったです。

和教組 T

第2分科会 自分らしく生きるために―登校拒否・ひきこもりの問題

- 一 登校拒否、不登校の子どもたちへの理解を深める取り組みを広げましょう。
- 一 生きづらさに苦しむ子どもや青年の環境権、学習権を保障しましょう。
- 一 当事者の声を聴き、相談・居場所・ゆるやかに働ける場を保障するよう、行政にはたらきかけましょう。民間で運営している団体に補助金を出してください。



(感想) 子どもへの接し方の「おすしさいこうかよ」は、とてもいいと思います。悩んでおられる方や経験された方、支援の方の参加もあり、県下での動きもわかって良かったです。

「生きづらさ」についても深まったと思います。評価の目や「～しなければならない」という世間や自分もそう思ってしまうと子どもや大人をよく見ます。「子ども基本法」を広く学んで、自分らしく生きられるようになってほしいです。学校では、まだまだ子どもたちの声が大事にされていません。

先生方が忙しすぎる学校現場の問題は大きいと思います。子どもたちが主体で、学校が楽しいと言えるようになるには、子どもたちも、保護者も、声をあげられるような場や取り組みが必要だと思います。集まれば、少しでも前へ進むと思います。那賀 年金者 I

第3分科会 命が守られる医療とは―

- 一 今の保健所を減らさないでください。
- 一 医療・介護現場で働く人たちの処遇や改善を求めていきましょう。
- 一 人間として大切にされる患者の立場に立った温かい医療を求めていきましょう。
- 一 すべての病院で各科の連携と総合診療が果たせる体制を作っていくよう、求めていきましょう。
- 一 へき地医療がとても貧困です。もっと良くなるように求めていきましょう。



(感想) 自分の知らない事実が知れて、参加できて良かったです。3034床もベッド数が削減されるなんて…。

それぞれの立場から自分の回りに起こっていることを話せる雰囲気づくりを気にかけていただき、発言が続いていったのが良かったです。粘り強く続けて、運動をつくり上げていかなばという思いが湧きあがってきました。新婦人 無記名

(感想) 医療の対応がますます悪化しているということがわかりました。国の「異次元の子ども政策」は、給付を多くするために、他を削るといってんでもない政策だと思います。

人が集まり、安心して子育てできる町、国にするためには、医療の充実がとても大切なことがわかりました。初めて参加の分科会でしたがとても興味深かったです。和教組 S

第4分科会 食の安全を考えるー環境ホルモンってなに？



- 一 便利な製品、甘い言葉の裏側にある（裏側に隠された）危険性に着目しましょう。
- 一 化学物質の、人体や環境への悪影響を最小化するため、日常生活や行動を見直しましょう。
- 一 環境ホルモンについて、まず知ることが大切です。職場や地域での学習会に取り組みましょう。

(感想) 高校の時期に母から環境ホルモンのことを聞いていましたが、深くは知りませんでした。この 30 年間に、これほどの量の環境ホルモンを含んだ物があふれていることに恐れを感じます。私も、子どもが幼い頃に、割れない食器を使い、プラスチックのボールが 100 個程入っていたテントの中で遊ばせていました。とても反省をしています。今後はこの環境ホルモンを含む製品は避けること、知り合いに話して知らせていくことが大切だと思います。これ以上増えないようにしないと大変なことになると思います。日高 N

(感想) 『環境ホルモン』…久しく聞いていなかった言葉に、耳を疑うような内容ばかりで、時々気にはしていたけれど、EUの基準よりもはるかに日本は大量に使用していて、基準や安全が低くて、あらためて脅かされている事実には驚きと怒りが湧いてきました。PFASを止める企業の動き、止めようとしていく動きが世界全体で必要だなと思いました。

便利と思ってプラスチック製品を使っているのは、……生態系や脳神経の発達にも…生殖能力がなくなるとは“ヒト”の存続にも影響するというのはショックです。もっと日本でも議論が必要です！「それでも環境ホルモンは必要ですか？」の言葉に、日常生活の中で1つ1つ考えて、便利な製品、甘い言葉には気をつけようと思いました。日高 K

第5分科会 戦争を起こさないためにできること

- 一 九条を守り、生かす運動を強めましょう。
- 一 学び知らせ、あきらめないで声を上げ続けましょう。
- 一 歴史を学び、戦争を起こさせないために、小さなことでもできる事を続けましょう。
- 一 主権者としての意識を持ち、声を上げ、選挙に行きましょう。



(感想) お話の内容と資料、とても素晴らしかったです。学びました。

小さなことでも続けよう。自分にできることをしていこう。そういう思いをはっきり持つことができ、頑張る意欲が高まりました。地域にもどって、自分ができていることを見つけて、やっていこうと思いました。伊都 F

(感想) 助言者のお話はとても分かりやすかったです。増税が待っていることは当然なのに無関心の人が多いことに、あきらめてしまいそうになっていましたが、いろいろな発言を聞いて、できることをやろうという気持ちになりました。特に発言の中で、LGBTの運動が進んでいることも共感できました。小さなことから行動していきたいです。教組 U

第6分科会 ジェンダー平等社会って？-平和・自由・多様性…。

- 一 身近にある不平等、不合理な事実を見過ぎさないで、言葉に出して声を出し合い話し合しましょう。
- 一 県としてパートナーシップ制度を導入するよう要請するとともに、同性婚が早期に法制化されるよう、国に求めましょう。
- 一 女性差別撤廃条約の「選択議定書」の批准の早期実現に向けて、自治体や県へ要望をあげさせましょう。



(感想)いつもよく分からなくて、バラバラの問題でした。詳しくよく分かるように教えてもらったと思います。人間の生き方として、平和で自由な社会ってやっぱり一人一人の多様性を認め合い、人権を尊重し合い生きることが基本になっていると思います。

最近身近な問題がたくさんあり、どの分科会に参加すればいいかと悩みましたが、この分科会へ来て良かったです。Mさんに紀の川市へ来ていただいて、大勢の仲間と学習をしたいなあと思いました。

那賀 年金者 Y

(感想)Mさんの話を直接聞いて良かった。LGBTQのことや悩みがテレビで見るだけと違って、深く考えられた。

パートナーシップ制度を県は導入し、国にも要請してほしい。同性婚をすぐにも認めてほしい。身近な男女差別をなくしてほしい等、痛切に思いました。

那賀 新婦人 Y

第7分科会 SDGsについて学び、「できる」を考えよう

- 一 平和と連帯を大切に、SDGsについて学び、私たちの暮らしの中で、まずできることから実行し、行政や企業に働きかけましょう。
- 一 地球温暖化の深刻な状況をしっかり学び、知らせ、運動を広げましょう。
- 一 地域の自然エネルギーによる発電については、自然破壊の問題も含め、住民合意を大切にしながら、営利主義を排して推進していきましょう。

*①～⑦分科会の写真は、国賠同盟N氏から提供されました。感謝。

(感想)项目的に各人が、「できること」「こうありたいこと」を書き合ったことは、とても良かったです。

申し合わせ事項③の内容が掲げられたことは、ありがたく思いました。

有田 M

(感想)グループディスカッションで意見が出にくかったですが、みなさん、普段からSDGsにのっとった行動をされていると思いました。その自覚をする良い機会になると思うので、他の人たちにも広めていきたい学習だと思います。

今後、自分たちでできることを、小さいと思うか大きいと思うかで行動も変わってくると思います。行政、企業との協力もとても大切だと実感しました。

市民生協 K



第8分科会 健康体操 100年時代を元気に過ごそう



(感想)こんなにみっちり、自分の体をもみほぐしたのは初めてです。病気の後遺症で、しびれた両足が丁寧なマッサージですごく気持ちよく温まりました。これから続けていこうと思います。 和歌山市 年金者 K

(感想)体調を崩しなかなか動けない状態ですが、少しでも良くなるようにと参加しました。助言者の澆漑とした姿に励まされ、何とかついていきました。はじめは、先生の言う通りできませんでしたが、繰り返す中で、少しずつできるようになり体もすっきりして、参加してよかったと思いました。常に実行することが大切だとつくづく思いました。少しずつやっっていこうと思います。 那賀 年金者 M

第9分科会 鳥の巣平和公園の見学



(感想)白浜へ来たときよく通る道からちょっと入った所に、こんな戦争の跡があるとは、とても衝撃的でした。日本中の人に見てもらって、平和の大切さを再度心に焼き付けてほしいです。新婦人 O
(感想)由良の遺跡を見せてもらってから、今の世の中にこういったものを残して知らせていくには、何が必要なかをずっと考えていました。今回も、残されたものを大切に守ってくださるNPOの方々の苦勞を感じ、ありがたく思いました。



きなくさく感じるこの頃なので、命を本当に大切にする教育に国が力を入れてほしいと、つくづく思いました。大人の命も子どもの命も、大切にする国であってほしいと思っています。 新婦人 Y

第10分科会 京都大学水族館&南方熊楠記念館の見学

(感想)早くから参加者を待っている姿、遅く到着した参加者がいても臨機応変に対応されている姿を見て、大変だなという思いと同時に、気持ちよく参加してもらおうとする努力が素晴らしい姿勢だなと感じました。

熊楠は、バス・車の手配や館長による特別な説明と、どれも準備の大変さを思うととてもありがたく、貴重な体験を持つことができずごく満足です。大成功ですね。水族館は知らなかったの、白浜に水族館があったんだと知識が増えてよかったのと、めちゃくちゃでっかい赤いタイを見て、スーパーのタイと全く違う姿に、驚きと初めて魚を見る楽しさにテンションが上がりました。

初めての人前で楽しい雰囲気づくりは、とても難しいと思いますが、常にフレンドリーに会場案内、バスでのガイドや説明をしていただいた姿が“素敵なWoman”で尊敬します。“Good day♪”な体験をありがとうございました。 東牟婁 G



*⑧⑨⑩の写真は、分科会担当者からの提供です。感謝。

提起・和歌山にやってくる第69回日本母親大会を大きく成功させましょう



来年、2024年9月28日(全体会)～29日(分科会)に、第69回日本母親大会が和歌山にやって来ます。

2019年に第65回日本母親大会 in 静岡がのべ9,700人を集めて開催されてのち、新型コロナウイルス感染症が突然広がりました。母親大会が長年大切にしてきた「大勢で集まること」が困難となる中、日本母親大会実行委員会議では、2020年の沖縄での大会を1年延期して、大会開催の方法が繰り返し話し合われ、「開催地の事情」を尊重しながら、「できる形を工夫する」ことになりました。

母親大会の出発点は、1954年のアメリカによる水爆実験への抗議署名行動でした。世界の母親・女性が手をつなぎ「核戦争から子どもを守りましょう」と始まった1955年の第1回大会以来、「生命(いのち)を生みだす母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」のスローガンのもと、戦争放棄の日本国憲法に思いを重ね、途切れることなく大会を開いてきました。

母親大会は常に学習の場であり、連帯の場であり、勇気の湧く場であり、明日からの運動のヒントが生まれ、エネルギーが高まる場でした。参加者は、集まる人たちのパワーに圧倒されながらも同じ思いを持った人たちに励まされ、明日からまた頑張ろう、私にできることはなんだろうと考えを巡らせながら、各地へ戻っていき、そして、草の根の運動を粘り強く広げてきました。

今、日本は軍事大国化に邁(まい)進し、77年守ってきた平和憲法を投げ捨てようとしています。「子どもたちに今日と同じ平和な明日を」という当たり前の願いすら危うくなっています。人類の存亡をかけた核兵器禁止条約が2017年に国連で採択され、2021年に発効しました。しかし、多くの被爆者の眠る広島で先日(2023年5月19日)発表されたG7核軍縮に関するビジョンには核兵器禁止条約への言及がないばかりか、核兵器を正当化する言葉が並び、世界の分断と対立は一層深まっています。

2024年の第69回大会は、新たな戦前にするのか、平和を守りきるのか、日本が岐路に立つ時期に開催されます。平和とくらしを守る全国の運動や取り組みを持ってきてもらい、和歌山の取り組みや運動の歴史を知ってもらいましょう。私たち自身を勇気づけ、全国の仲間との連帯を確認し、知恵と力と経験を出し合う大会にしましょう。日本を「新たな戦前にしない」ために、みんなで歩み続けましょう。

2023年6月11日 第67回和歌山県母親大会